



CSR 活動を後押しする従業員エンゲージメント

企業のミッション、ビジョンや CSR 戦略を遂行する上で、最初の重要なステップは、従業員とのコミュニケーション、エンゲージメントである。これによって会社と従業員の間相互の信頼を構築することができる。従業員のエンゲージメントを企業の CSR 戦略の中心として実施することは、CSR のコミットメントを成功させる重要な役割を果たす。

従業員エンゲージメントの成功事例

筆者は、9月12-13日の2日間、ウクライナのキエフで開催された「ビジネスと人権研修」にオブザーバーとして参加した。

研修にはアルセロールミタル社ウクライナ工場のコンプライアンス担当者が参加していた。同社は「国連ビジネスと人権に関する指導原則に則った人権プログラムの推進」では先進企業である。研修内で、彼女から幾度となく聞いた言葉は「企業が倫理的であるかどうか」ということ。コンプライアンス担当の彼女でさえ、企業が倫理的であることが重要だと感じていて、コンプライアンスを超えたところに企業があるべきだという認識を持っている、そのことが彼女を通じて伝わってきた。

素晴らしいと感じたことは、アルセロールミタル社が「人権プログラムの推進」で世界をけん引している状況にあり、そのような企業に勤めることができると、彼女自身が話していたことである。CSR・人権についての取り組みを企業が実施するに当たって、その取り組みの中で必要な CSR 教育が徹底されていること。CSR の推進によって社員が会社に誇りをもっていること。この2点をウクライナ工場のコンプライアンス担当者から感じることはできたのは、収穫の一つであった。

このように従業員のエンゲージメントに取り組む際に効果的な方法として、次が挙げられる。

1. CSR 教育：企業の CSR 活動に従業員を巻き込むために、企業の CSR の概念と CSR 戦略を全従業員に理解してもらうことは必須である。これによって企業全体の CSR に関するベクトルを一つに合わせることができるようになる。CSR 教育は、CSR に関するトレーニングやセミナー、ワークショップの企画や、Eメール、eラーニング、ウェビナーやハンドブッ

クなどを活用することによって導入が可能である。

2. 個々の従業員に対する CSR プログラム：多くの企業は、従業員に対して環境保護やサステナビリティに関連するものなど CSR プログラムを持っている。従業員がカーボンフットプリントをどのように減らすか、エネルギー効率を上げるか、人権に配慮するかなど、彼らのアイデアを共有する場としてのさまざまなミーティングやクラブ、インフォーマルグループを設けることは重要である。

3. CSR 戦略形成のための従業員のフィードバックの活用：企業の CSR 戦略向上に関する従業員のアイデアをアンケートやフォーカスグループを通じてシェアすることは、企業と従業員の双方に良い影響を与える。

上記にのっとり、効率的に実施すると、企業は次のメリットを期待することができる。

- ・従業員が CSR 戦略を理解し活発に実践するようになる。
- ・従業員のモチベーションが上がり、生産性の向上、顧客へのより良いサービスの提供につながる。
- ・従業員の幸福感や満足度の向上が仕事場に良い影響を与える。
- ・従業員の企業への信頼性の増加、ロイヤリティ向上によって離職率が下がる。それによる、リクルート費用や従業員保持コスト、新規従業員への教育コストを削減できる。
- ・職場のメンタルヘルスケアが確保され、ストレス軽減につながり、傷病休業件数・日数率が下がる。
- ・工場作業場での労働災害発生の防止につながる。
- ・従業員が画期的なアイデアを思いつきやすい土壌ができる。
- ・究極的に従業員が、企業の CSR 活動について、社外に大きく伝える必要な役割を果たすようになり、企業のレピュテーションが向上する。

CSR 戦略を経営戦略として位置付け、従業員の CSR の浸透、理解、そして実行につなげることが、社内で CSR を推進する原動力になる。ぜひとも、身近なステークホルダーである従業員との CSR コミュニケーション・エンゲージメントを見直し・強化して、CSR 活動推進の足掛かりとしていただきたい。